平成 29 年５月 19 日

各　　位

会 社 名　ＯＫＫ株式会社
代表者名　代表取締役社長　宮島　義嗣
（コード番号　６２０５　東証第１部）
問合せ先　取締役上席執行役員 管理本部長　道岡　幸二
（ＴＥＬ．０７２－７７１－１１５９）

営業損失（棚卸資産評価損）の計上および平成29年３月期通期業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

平成 29 年３月期連結累計期間（平成 28 年４月１日～平成 29 年３月 31 日）における営業損失の計上について下記のとおりお知らせいたします。

また、平成 29 年３月 22 日に公表しました平成 29 年３月期通期連結業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．営業損失（棚卸資産評価損）の計上について

当社は現在、事業基盤の更なる強化を目指した構造改革として、新基幹業務システムと連携し、物流改革と生産改革を合体させた生産力向上プロジェクトに取り組んでおります。その一環として、在庫の圧縮を進めていく中で棚卸資産についてより厳格な評価を行い、その評価損 306 百万円を計上しました。

今回の損失計上は、これら構造改革にともなう財務体質向上に向けた一過性のものと判断しています。これらの取り組みは着実に効果を発揮しており、今後も引き続き、全社一丸となって業績向上に努めてまいります。

２．連結業績予想数値と実績値の差異（平成 28 年４月１日～平成 29 年３月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（Ａ）	23,500	40	△170	△200	△2.53
実績値（Ｂ）	23,642	△251	△443	△410	△5.19
増減額（Ｂ－Ａ）	142	△291	△273	△210	
増減率（%）	0.6	―	―	―	
（ご参考）前期実績（平成 28 年３月期）	26,735	1,199	839	557	7.05

３．差異の理由

主力の工作機械部門において、国内の受注はものづくり補助金等の政策効果にも支えられ比較的堅調に推移し、下半期は、海外の落ち込み等による上半期の損失の挽回を図り、また生産力向上プロジェクトへの先行投資等による全体の落ち込みのカバーに努めました。これらの結果、売上高は概ね前回予想通りの結果となりましたが、前述の営業損失を計上したことにより、営業利益と経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益については、前回予想を下回る結果となりました。

以　上